平成26年度 2次公募 ものづくり･商業･サービス革新補助金

革新的サービス
設備投資

新設備導入による写真撮影からアルバム製本までの工程の社内一本化による品質向上と効率化

有限会社 さかえ写真スタヂオ

概 要 写真撮影は自社で行い、アルバムの制作・製本は外注に出すのが通例となっている業界で、撮影からアルバム製本までの工程を全て自社で行い、高品質のアルバム製作と社内効率化を図るため、新設備を導入する。


内製化の要であるフォトブックオンデマンド機器


電動式断裁機は5ミリ単位の正確な断裁ができる


簡単にアルバムの中ページが製作できるアルバム製本機



外注することなく高品質なアルバム製作が可能になった

企業情報

会 社 名 有限会社 さかえ写真スタヂオ
代 表 者 代表取締役 小石 淳一
所 在 地 〒870-0033 大分県大分市千代町一丁目2番30号
実施場所 〒870-0030 大分県大分市大字三芳1801番地1
T E L 097-532-8485
F A X 097-532-1130
U R L http://www.sakae-photo.jp

事業内容 写真館
資 本 金 350万円
設 立 昭和44年7月
社 員 数 40名



背景・経緯

もっと早く、より綺麗に老舗写真館が打ち出した新機軸

大分市千代町にスタジオを構える有限会社さかえ写真スタヂオは、大分市でも指折りの老舗写真館である。七五三や成人式など、人生の節目で記念に残る写真を撮り続けており、とくに“ブライダルの さかえ”と言われるほどブライダル写真には定評があり、これまで1,000組以上の新郎新婦の門出を撮影してきた。また、ファミリースタジオ ステップを県内外に８店舗展開し、さまざまなニーズに合わせた写真撮影を多角的に行っているという。

通常、写真館で撮影した写真はプリントのまま納めることはなく、少し前までは台紙に貼って、最近ではアルバムに仕上げてと、人々が望む納品の形も時代ごとに変化しているようだ。アルバムの製本は専門業者に外注するのが業界の通例で、これまでは同社も関西の業者に外注していた。だが、全店舗をあわせると９店舗分の写真を外注するのはコストも膨大であるし、なにより時間的・商品的制約が大きかった。

そこで自社に製本機などを整備することで撮影から仕上げまでのすべてを内製化し、コスト削減や納期の短縮化などを図ることにしたという。

事業内容

納期や質感といった外注時の諸問題を内製化で解消

大分市三芳にある、さかえラボは、さかえ写真スタヂオとステップで撮影された写真の仕上げを一括して担当する同社の写真加工施設である。今回ここに導入されたのは、フォトブックオンデマンド機器やアルバム製本機、電動式断裁機、写真にラミネート加工を施す電動コールドラミローラーなど。これらを使うことで高品質なアルバム仕上げが自社で可能になるという。

これまで外注していた業者は関西にあるため、細かな修正や変更にも対応に時間がかかっていた。最短でも一週間、繁忙期や休日が重なると写真の変更だけで二週間もかかることがあったようだ。さらに商品が届くのにも時間がかかるため、こちらから商品を受け取りに行くこともあったという。今回の内製化により、これらの不便さが解消されることは大きなメリットがあるようだ。

ラボ内では10名の社員が、デザインから出力、裁断、製本、チェックといった工程のすべてを行っている。ちなみに、大分で撮影からアルバム製本までを内製化しているのは同社だけ。今回の事業は、より品質の高いアルバムを作りたいという思いが結実したものと言えるだろう。

まとめ

外注していた製本を
内製化することで、
より細やかなサービスと
納期の短縮化に成功した。

成 果

デザインから素材、ページ数まで きめ細かに対応できる自社製本

導入したフォトブックオンデマンド機器は、銀塩プリントではなくオンデマンド印刷で出力することで、今までと風合いの異なるアルバムを製作することが可能となった。また、自社製本のため、写真の修正や変更にも即座に応じることができるのも大きな利点のようだ。さらに多ページ化も実現しており、100ページ以上のアルバムも製作できるという。また、以前は外注先のデザインバリエーションはそれほど多くなかった。だが、これからは社内のデザイナーがデザインすることで、アルバムデザインの自由度も上がり、自社独自の新商品も打ち出せるようになった。

とくに変わったのは、撮影してから納品するまでの時間だという。ブライダル写真などは撮影してから二ヶ月前後で納品。繁忙期には、さらに遅く納品していたこともあるという。外注に出す以上、どうしてもそれだけの日数がかかってしまうのだが、あまりに長く待たされると、顧客からワクワク感が消えてしまうという。

同社は今回の内製化により、撮影から納品までを一ヶ月という短期間で行うことが可能になった。感動が鮮明に残っているうちに写真を渡すことも、この仕事における大切なサービスなのだと担当者は語った。

展 望

デジタル全盛の時代のなかでも 多くの人に選ばれる写真館であるために

実際に稼働して一年が経ったが、自社での製本作業では、紙やインクのロスが少なくない。もちろん外注費は削減できているが、自社製本することで発生する消耗品のコストも、それなりに大きいようだ。今後は作業の練度を上げて、より効率的な製本作業ができるようにしていきたいという。さらに、現在は自社の製本作業だけを行っているラボを独立させ、ゆくゆくは他社のアルバム製本も受注できたらと考えているという。

現在では誰もがデジタルカメラやスマートフォンで写真を撮り、質を問わなければインターネット経由で安価なフォトブックが作れる時代。そんな時代にあっても、「やっぱり、さかえ写真スタジオで写真を撮ってもらおう」と、人々に選ばれる写真館でありたい。そのために、時代の流れを常に見極めていきたいと担当者は話す。この10数年で大きく変革した写真の撮り方・楽しみ方のなかで、同社がどのように感動を届けていくのか、老舗写真館の新たな挑戦を見守っていきたい。